

# 2022年度の事業報告

(2022年1月1日から2022年12月31日まで)

特定非営利活動法人ランナーズサポート北海道

## 1 事業の成果

### A)北海道マラソン教室

北海道マラソンの3年ぶり開催を受けて、マラソン教室を5月14日より開講し計6回シリーズで実施した。指導はランニングの科学的研究とコーチングが専門の北海道教育大の杉山喜一教授、北海道医療大の山口明彦教授、井上恒志郎講師。4回目の30km走(7月17日)には150名が参加した。また北海道マラソン前日には教室の番外編として国際武道大学の前河洋一教授をゲストに招き、大通7丁目のEXPO 特設ステージで直前ランニングセミナーを開催し好評を得た。大会終了後には教室参加者の要望で「エンジョイランニングスクール(ERS)」を9月から11月までに6回実施した。

### B)北海道マラソン2022チャリティーエントリー

過去最高の132人のランナーとその賛同・応援の寄付金69万1,000円から、エントリー運営経費1割を除いた62万900円を下記の団体、事業に配分した。

■寄付先指定団体・事業(1団体 1事業)	△エコ・ネットワーク
△公益財団法人そらぶちキッズキャンプ	△辻井達一ラムサール湿地基金
△北海道マラソンクリーン宣言事業	△北海道爬虫両棲類研究会
■障がい・福祉分野(14団体)	△大雪山マルハナバチ市民ネットワーク
△一般社団法人札幌市障がい者スポーツ指導者協議会	△コドモリくらす
△こども食堂北海道ネットワーク	△一般社団法人大雪山・山守隊
△NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会	△NPO法人常呂川自然学校
△NPO法人羽原コレクション	△オホーツク魚類研究会
△NPO法人子どもサポートどろんこクラブ	■スポーツ・文化・地域おこし分野(12団体)
△NPO法人北海道エコ・サツリスム推進協議会	△NPO法人 Dosapo
△NPO法人子どもシェルターレピリカ	△ドニワ部
△NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道	△北海道オール・オリンピックス
△一般財団法人北海道難病連	△NPO法人 bamboo
△NPO法人 Cansur Linkaid	△北海道マスタース陸上競技連盟
△NPO法人ピスカリ	△恵庭市花いっぱい文化協会
△NPO法人旭川ひだまりの会	△NPO法人雨煙別学校
△NPO法人ママサポートえぶろん	△一般社団法人 ATSUMANOKI96
△NPO法人卵らんハウス	△奥尻高校オクシリイノベーション事業部
■自然・環境分野(10団体)	△NPO法人西興部村猟区管理協会
△NPO法人北海道海浜美化をすすめる会	△NPO法人ククルクス
△北大ヒグマ研究グループ	△標津町商工会女性部

### C)北海道マラソンクリーン宣言

夏マラソンの暑さ対策として給水エイドを充実している北海道マラソンだが、反面、コース上で紙コップやスポンジの散乱が問題とされる。マナー、美化、SDGsなどの観点から、当NPOが中心となり、「紙コップはゴミ箱へ」の看板設置などランナー啓発活動を大会プログラム、受付会場、大会コース上で行った

### D)スポーツボランティアの振興、啓蒙

2013年に発刊した北海道マラソン2022は2年間の空白から団体・個人ボランティアの入れ替わりが多く、新規の団体への事前説明を大会事務局とともに行った。また新規団体の現場指導役や個人ボランティアエリアのリーダー役コーディネイトを担当し、NPOスタッフを中心に給水活動を牽引した。2013スポーツボランティア情報誌「北のスポボラ」（2013年創刊）は26号（3月）「北海道マラソン2022特集―定員、制限時間、コースは―」、27号（7月）「にぎわい戻った函館マラソン―エイドステーションにフードも登場―」、28号（12月）「コートに熱いプレーを後押し―レバンガ北海道ボランティア―」を発行した。発行部数は各2,300部。コロナ禍で多くのスポーツ・ランニング大会が中止になったが、そのなかで実施にこぎつけた10月17日の「北海道森林マラソンin白旗山」に当NPOメンバーがボランティアスタッフとして参加した。

#### **E) 北海道スノーマラソン**

第8回北海道スノーマラソンは1月30日に第8回大会を予定したが、コロナウイルス感染拡大で直前に中止の判断をした。参加料は次大会へ参加を希望する人は繰り越し、返還希望にはクオカードで返金した。第9回大会（2023年1月29日開催）は10月から準備に取り組み、12月23日の締め切りまでに、前回大会からの繰り越し者と新規申込者合わせて461人を受け付けた。

#### **F) 北海道ランニング大会ガイド**

当法人が編集を担当していた北海道ランニング大会ガイド（北海道新聞社刊）が新型コロナウイルス感染症によるランニング大会の消滅で2020年版をもって廃刊した。その受け皿としてWEB版のランニング大会ガイドを制作しホームページで公開する準備を進めてきた。事務局の長能潔氏を中心に取材、編集、制作にあたり、復活した北海道マラソンをはじめ、道内のランニングイベント情報を発信した。